

取組事例の紹介 ⑧



長野県教育委員会事務局教学指導課心の支援室

開かれた保健室を目指して

～教育相談において保健室の果たす役割は多岐に渡り、その重要性は増しています。今回はS中学校の保健室、養護の先生にお話をうかがいました。～

『相談窓口』と看板を掲げているだけでは生徒は相談に来ません。安心安全な場所であると同時に開放的な保健室を目指しています。大切にしているのは、「誰でも来室していい場所」、保健室で相談したら「気持ちがちょっと楽になった」と感じてもらうこと、「保健室で相談するといよいよ」と困っている友達に勧めってもらうこと、友達のことを相談にくることなど、生徒が必要と感じた時に誠実に対応し、「保健室の信用」を高めていくことです。

生徒のタイプと対応の心得

保健室に相談のために来室する生徒と接する際、心がけていること

○ 悩みを相談しようと決めて来室する生徒

- ・話したいと思って来室するため、切羽詰まっている場合や緊急性が高いことが多い。そのような場合はすぐに相談を始める。
- ・何度か相談に来ている場合は、先生がどのように対応してくれるか生徒が理解している。先生に相談すると解決の糸口がつかめるよさを知っているため、些細なことでも相談にきてくれるようになる。問題が深刻化せずに解決できる。

○ 悩みを話そうかどうか迷いながらも来室する生徒

- ・体調不良などで保健室を利用したことはあるが、相談したらどのように対応してもらえるのか不安を持っている。
- ・相談を聞きながら、問題解決の方法をともに考え、安心感がもてるようにする。

○ 保健室に他の生徒がいたり、相談に慣れていなかったりして、相談しにくいと思う生徒

- ・問診票の相談の欄に薄く鉛筆で○をしたり、はいといいえの間に○をしたりする。
- ・自分から多くは語らないが、相談したいことはあるため、問診票を手掛かりに、日頃の生活や友人関係のことをききながら、心に引っかかっていることを明らかにしていく。

○ 嫌なこと、気になることはあるけど保健室で相談できると思っていない生徒

- ・嫌なこと、気になることをどのように解決していけばよいか、見通しをもてるような相談を行う。また話をきかせてほしいことを伝えていく。

○ 保健室なんか何の役にも立たない、相談したってなにもかわらないと思っている生徒

- ・批判的な態度や攻撃的な態度であっても、つきあいながら気持ちをほぐしていく。

○ 友達のことでも伝えた方がいいと思っている生徒

- ・よく話してくれたというメッセージを伝え、その友達を保健室に連れてきてもらうようお願いする。また、他の友達で情報をもっている人がいたら、情報を教えてほしいことを伝える。



保健室発チーム支援ネットワーク

安心安全な相談窓口としての保健室を基点とし、全職員がかかわる相談支援体制を工夫しています。

安心安全な相談窓口としての保健室

- 相談していることをほかの生徒に知られることなく、生徒が悩みを安心して語ることができるよう相談場所や相談時間等配慮する。→ その日の中でよい時間を相談して決める。
- 自分が相談したことが、「チクッた」と思われ、問題の悪化を心配している場合は、秘密を厳守することを約束するとともに、人権と命を守る立派な行為であることを伝える。
- 養護教諭以外に相談内容を話していいか本人に確認する。相談を広げていくことで解決につながるメリットを話し、チーム支援のベースを作る。

情報を教頭・生徒指導主事学年主任へ

本人の了解を得たうえで情報を伝える。放課後や翌日にならないようにする。事案にもよるが、その日のうちに対応しなくてはいけないこともある。

関係者で協議し、支援の方向性を決定する。

教務会へ

保健室から、欠席者、遅刻者、早退者状況、けがの状況、保健室利用状況、生徒のつぶやき、生徒の相談内容など、学年間で連携が図れる資料を提供し、些細な子どもたちの変化に学年や部活で対応できるような体制づくりを行っている。

学年会に参加

養護教諭も支援チームの一員として役割を担う。学年会や朝の学年打ち合わせ会に参加し、バックアップする。保健室に集まる生徒の情報を学年に伝え、支援方針のもとに対応できるようにし、収束を図る。

解放的な 保健室



保健室への学年職員の巡回

各学年で当番を決め、空き時間職員が空き教室等の巡回を行う。その際、保健室を利用している生徒と話したり学習を教えたりしながら、相談をしてくれる。教室に入りづらい生徒に教室まで付き添うなど役割は大きい。

養護教諭と学年職員、生徒指導主事の連携が毎時間できる。

保健室の窓から

反抗的で言うことをきかない元気な生徒、集団に不適應を起こしている生徒など先生方からみると「ちょっと手がかかるなあ。」と思う生徒が保健室にやってきます。

そんな生徒達は、感性が鋭く、学級や部活のこと、先生や友達同士のことなどを感じたままにつぶやきます。そんな生徒のつぶやきは、当を得ていることが多く、緊急に対応しなくてはいけないことや教職員が気付いていないことを教えてくれる学校にとっては宝物です。

「あれっ」と思う生徒のつぶやきがあったらおせっかいかもかもしれませんが、その中味を必ず聞きます。生徒は「先生はすぐ首を突っ込んでくるね。」と、いいながら話してくれます。その奥には、学校として対応しなくてはいけないことが潜んでいます。

保健室は情報基地局ですので、キャッチした情報を必要なところに発信し、チームとして問題解決にあたることができます。そんな保健室を通して、子どもにとっても教職員にとっても過ごしやすい学校を目指していきたいと考えます。

